



地域がん診療連携拠点病院・基幹型臨床研修病院・協力型臨床研修病院・地域医療支援病院・災害拠点病院・熊本DMAT指定病院・救急指定病院

理念 140年の歴史と設立の経緯を忘れず全人医療を提供します

基本方針

患者中心医療

患者の人權と意思を尊重します

患者診療3本柱

がん・救急・予防医療を中心に
医療機能の充実を図ります

完結型医療

地域の医療機関との連携を行い
安心できる医療の展開を行います

社会貢献

災害医療派遣・医療情報公開・医療
ボランティアの活動を行います

医療人育成

医療に携わる喜びが持てる医療人の
育成を行います

第28回 JCHO 人吉医療センター研究発表会



研究発表会プログラム

No	演 題 名	演 者
第1セッション 座長 田嶋 恒三 / 中村 利枝		
1	周術期等口腔機能管理の取り組み	松永 千恵
2	当院からの栄養管理情報発信 ～地域での切れ目ない栄養管理を目指して～	芝田 彩夏
3	安全で効率的な手術の提供を目指して ～オペラマスター導入による業務改善～	川内 裕美
4	当院における術中神経モニタリング業務の現状と今後の課題	石橋 直記
第2セッション 座長 尾方 希久子 / 里田 亜矢子		
5	当院の健診マンモグラフィのトモシンセシス追加基準の検討	川崎 里奈
6	当院乳癌超音波健診における現状と健診で指摘しえなかった乳癌超音波画像の検討	豊原 早織
7	検査結果報告時間 (TAT) の短縮改善を目的とした検査機器更新の取り組みについて	濱津 育宏
第3セッション 座長 田浦 尚宏 / 財部 しのぶ		
8	自家歯牙移植の取り組み	野村 昌弘
9	リウマチ性多発筋痛症の症状が疑われた脊椎炎3例	森 遼介
10	左室流出路圧差を認めたタコツボ型心筋症の一例	筑地翔一郎
市民公開講座 座長 木村 正美		
「国際的な第三者評価 (JCI) について」 株式会社 日本経営 吉留 菊代 先生		

令和元年12月14日(土)、清流山水花あゆの里において第28回 JCHO 人吉医療センター研究発表会が開催されました。一般演題では、3セッションに分かれ、10題の発表があり、活発な質問や意見交換が行われました。そして特別講演では「国際的な第三者評価 (JCI)」について株式会社日本経営の吉留菊代先生よりご講演頂きました。当院は2000年から5年毎に病院機能評価を受け、来年が更新の年となっており、病院機能評価より更にレベルの高い国際的な医療機能評価である J C I の内容や評価方法など病院機能評価と比較して詳しく分かりやすくお話頂きました。医療者として医療の質を高め、患者さんに安心安全の満足のいく医療を提供していくために、理解を深めることができました。

今回の研究発表会の一般演題は「新しい取り組み」というテーマで、医師、研修医、看護師、メディカルスタッフなど多職種から、新たに行ってきた取り組みや業務改善の取り組み、過去の症例から今後のへ繋げる検討、症例など発表がありました。私は2016年より栄養管理室で取り組んできた栄養情報提供書について発表させていただきました。地域連携を目指した栄養情報提供書の作成は、転院先施設の業務負担軽減、すばやい食事対応や継続した栄養サポートに繋がり、当院からの送付件数は年々増加傾向にあります。今後もこの取り組みを継続し、地域中核病院の管理栄養士として同職種連携を密に図り、途切れない栄養管理を目指していきたいと思います。

栄養管理室 芝田 彩夏

「人生会議の日」イベント開催

11月30日の人生会議の日に先駆け、11月27日にイベントを開催いたしました。

まず、「人生会議の日とは？」という疑問があると思います。人生会議とは、いずれ誰もが迎える最期の日までをどう生きたかということを考え、大切な人と話し合う日であり、そのことを普及・啓発させるために厚生労働省が設けたのが「人生会議の日」です。

医療の場においては、終末期の医療に関する選択があり、生活の場面においては介護や財産管理など、自分の判断能力がなくなった時にどうするのかという問題があります。

自分の判断能力がなくなった時に自分のことを誰に決めてもらいたいのか、自分の財産や生命をどのようにしてもらいたいと考えているのかを話し合い、伝えることが大切です。

今回は、人吉市の協賛があり、また人吉市社会福祉協議会からも職員の方にご参加いただき、医療の場面や生活の場面で生じる問題に備えた幅広い相談会を実施することができました。

イベントは、午前、午後の2部制構成で、午前は、エンディングノートや命のバトン（緊急時の連絡先を伝える手段）、ACPシートの作成相談会を行いました。イベントに訪れた方の約半数の20数名の方が実際にエンディングノートやACPシートの作成などを体験されました。

午後の部では、講師に国立熊本医療センター腫瘍内科部長 健爾先生をお迎えして、「人生いろいろ、最期の迎え方」と題した講演を賜りました。



境先生は一般の方にお話しされる機会は少ないということで、ご自身の体験に基づいたお話は非常に分かりやすく、参加者の中には、時折頷きながら熱心にメモを取られる姿も見受けられました。

講演後は、大切な事を話し合い、自分自身の気持ちと向き合うためにつくられたツールである「もしバナカード」を希望者に体験していただき、参加された皆さんに、自身の思いを伝えて頂きました。

芸能人を起用し、厚生労働省が手掛けた人生会議のポスターが物議を醸したように、色々な解釈の仕方や意見があると思いますが、「自分がどうしたいのか」を周囲に伝え、「実現するため何を準備すべきか」を考えることは、決してその人の利益を損なうものではないと思っています。

この地域で、「人生会議の日」が、クリスマス・・・せめてハロウィンくらいまで認知度が上がるようチーム一丸となつてがんばります！

医療福祉連携室 岡本 理恵

看護部 ACP 研修

11月30日に鹿児島県相良病院の緩和ケア支援センター長 江口恵子先生を講師に、「アドバンス・ケア・プランニング(ACP)を実践するために知っておくこと」の研修を開催しました。人吉・球磨の看護師、保健師、介護士、臨床心理士など計44名の参加となりました。

急性期の現場では、高齢者における「人生の最終段階の医療の方法」におけるモヤモヤに遭遇することがあります。「この方は、これで満足だったのだろうか」と悩み、今後、あらかじめ意思表示しておく「事前指示書」等が重要になると考えていました。

しかし、研修を終え、私のACPに対する考えは少し変わりました。

結論を急がずに、家族と共に一緒に悩みながら思いを共有していくこと。「なぜそのことを希望するのか」そう思うプロセス

が大切で、そこを理解していると複雑な状況においても対応可能になるということでした。

今後さらにACPが普及していくためには、話し合いをもっと明るく前向きなものにしていく必要があります。死や最期のときを意識することは決してタブーではなく、進学や就職、結婚などについて家族と相談するように、早い段階から生活の中で自然に話し合える文化になること、また、その思いをみんなが繋ぎ支えていける地域になるよう希望します。

さらに、相良病院でのACPシートの活用、カンファレンスの在り方、多職種共有のサマリーなどの具体的な取組を教えてください、私の「いい人生会議の日」は学びの一日となりました。

看護部 溝口 美香



令和元年度JCHO九州地区 中堅看護師研修に参加して

独立行政法人地域医療機能推進機構(JCHO)では、中堅看護師に対して当該部署でのロールモデルとなれるよう、能力の向上を目的に毎年研修を行っています。

この研修では自身の役割を考える事、リーダーシップを発揮しながら、問題の捉え方や解決に導くための方法などを学びます。

研修に参加し、リーダーシップのとり方ひとつにしても、色々なタイプがある事を知りました。具体的に指示を出す「指示型」、快適な状況を作り出す「支援型」、意思決定を促す「参加型」などなど、その時・その状況でとるリーダーシップのとり方は使い分ける必要があります。普段は考えた事も無かったのですが、自分はどんなリーダーシップのとり

方をしているのかと考えさせられ、多くを気付かされました。研修を受けてから、上司はこんな時どういう対応をするのか？先輩は？同期のスタッフは？と自分の周囲の対応の方法を注意深く見る事ができるようになったと感じます。また、九州地区の同じような経験年数の看護師が集まる為、仕事に対する悩みなどの多くを共感でき、悩む内容は皆同じなんだと少し安堵したところです。

今後も大なり小なり色々な問題に直面すると思いますが、今回の研修を通して学んだことを活かし、少しでも皆の不安を解消できるような看護師となれるよう精進していきます。

7階病棟 看護師 立開 光義

DMAT 活動報告

① 11月10、11日の2日間、令和元年度緊急消防援助隊九州ブロック合同訓練と九州沖縄ブロック DMAT 実働訓練（宮崎県）が行われました。今回は下川医師、尾方看護師、小栗看護師、杉松看護師、那須業務調整員が参加しました。まず緊急消防援助隊との訓練は宮崎県南部山沿いを震源とする M7.3 の地震が発生、更にそれに連動して霧島連山新燃岳を震源とした M7.3 の地震と新燃岳の爆発的噴火により土石流及び山崩落発生にて甚大な人的、物的被害が発生したことを想定したものでした。宮崎県西諸県郡高原町の総合運動公園にてがれき下から消防隊が救出した傷病者を DMAT がトリアージと搬送先選定を行うというミッションでした。その訓練が午前中で終了した後、速やかに DMAT 実働訓練へ移行しました。DMAT 実働訓練は想定が南海トラフ地震のシナリオで進行しており当院 DMAT は小林市立病院にて病院支援や支援 DMAT の受け入れ準備、広域災害救急医療情報システム（EMIS）を使用して小林地区周囲の被害を確認する等の訓練を行いました。

これらの訓練を通し、消防との連携の重要性、病院支援の難しさを再認識するよい機会となりました。

② 11月13日、今年も久七トンネルの多重車両事故訓練に参加してきました。この訓練は人吉市と鹿児島県伊佐市を繋ぐ久七トンネルで、熊本県・鹿児島県の行政、警察、消防と合同で毎年行っている訓練です。今年は人吉市が訓練担当であったのでトンネルの人吉市側に救護所が設置され、そこで当院 DMAT は北薩病院 DMAT と協力し傷病者のトリアージを行いました。毎年訓練へ参加しておりますが毎年新たな課題が見つかります。それだけ中身の濃い訓練であるということでしょう。そして訓練が終了して病院へ帰ってくる際の道沿いの紅葉が DMAT 隊員を毎年癒してくれるのも恒例となっています。

③ 12月1日、球磨村小中学校防災教育の日ということで球磨中学校にて、ドクターヘリが傷病者を球磨中学校まで搬送し

DMAT が応急処置し自衛隊の救護車にて病院へ搬送するという一連の展示訓練を行いました。訓練後は球磨村の小中学生にドクターヘリ、自衛隊、消防、DMAT の紹介がそれぞれあり、当院 DMAT は渡邊医師が手作りした特性パネルを使用し、クイズ形式での紹介を行いました。小中学生のみならず大人の方にもウケがよく改めて渡邊医師のマルチな才能を垣間見た瞬間でもありました。球磨村の方々に DMAT の存在を知っていただくよい機会となりました。

リハビリテーションセンター 那須 智久



トリアージを行っている様子
(DMAT実働訓練)



北薩病院DMATと情報共有
を行っている様子（久七トン
ネル訓練）



道具などの説明を行っている
様子



球磨村中学校ヘドクターヘリが着陸するところ

日本フットケア・足病医学会九州・沖縄地方会学術集会

10月18、19日にアクロス福岡で開催された第1回日本フットケア・足病医学会九州・沖縄地方会学術集会に参加してきました。当院からは私の他に循環器内科の黒川医師も発表で参加されました。学会のテーマは「One For All, All For One - スクラムを組んで足を救おう -」でした。私は「多職種連携による心不全患者の下肢病変を早期発見できた一事例」について発表しました。

初めての院外での発表であり、とても緊張しましたが、黒川医師の発表の後であり、とても心強かったです。発表に向け準備をするにあたり、たくさんの方々の支えがあり、周りの環境に恵まれている事に改めて感謝しました。多職種連携に視点をあて発表しましたが、連携をすることは患者の皆さんへより良い看護を提供できるだけでなく、自分自身も支えられ成長する事に繋がっていることを学びました。

私の発表したセッションでは主に医療者間での連携についての演題が主でした。興味深かったのは、遠隔連携ソフトを用い足病変重症化予防の医療ネットワーク構築をされている発表でした。チャット機能を用いて遠隔地の医師や医師以外のスタッフなどで診療相談しサポートされていました。ネットワーク社会である現代において、医療システムも進化しており、連携の形も変わって来ている状況にある事を学びました。

緊張した2日間でしたが、学会発表を温かく見守って下さった先輩方と楽しい夜も過ごす事ができ、とても良い思い出になりました。今後も多職種と情報を共有し、患者さんの主訴だけではなく、臨床的な症状をアセスメントし、本来の訴えを見逃さないケアができるよう努めていきたいと思っています。

6階病棟 看護師 石田 愛恵



AHA-PEARS プロバイダーコース

11月23日(土) AHA-PEARS プロバイダーコース(主催: Child Future 熊本主催)を当院で開催しました。

今回で3回目の当院開催となったPEARSは、小児の「評価・認識・病態安定化」を学ぶコースです。1日を通して座学・シミュレーションを行い、「今何が問題でどう対応すべきか?」を受講者全員で常に考え学んでいきます。時間もタイトで内容も凝縮されていますが、専門職としての自覚と責任をもち、積極的に研修に取り組んでいました。また、わからないところは受講生同士で補い合いながら、チームとして適切な対応が出来ていたと思います。以下受講生の感想です。

小児救急の知識不足を克服するため、今回受講を決意しました。まず、小児救急に対する、評価・認識・アプローチの仕方・病態に起因するショックの知識について学びました。BLSは、成人との違いを理解し、人形相手ではありましたが、現場を想像しながら取り組みました。また、シミュレーションにあつては、チームダイナミクスを勉強し、リーダーの重要性や相互尊重、知識の共有に明確な受け答えなど、複数の効果的な要素により、円滑かつ優れた活動が出来る事を学びました。最後に、異業種(看護師)の方々と一緒に研修を受け、お互いの認識の違いや相互理解を深める事ができ、今後より良い救急活動、更には救命の連載へと繋がると感じました。

人吉下球磨消防組合 救急救命士 小川 拓郎



日頃、小児救急に携わることは殆どなく研修参加に不安もありましたが、マネキンとシミュレーション・コンピュータを用いた実践形式のトレーニング中心に小児の体系的アプローチを学んでいくコースでとても解りやすい研修でした。またチームを組んで研修を行うことにより、チームワークの大切さを学ぶことができ、より実践に近い研修ができました。

とてもハードスケジュールではありましたが、人吉球磨地域に質の高い看護を提供できる仲間を増やしていけるよう、今後も研鑽していきたいと思っています。

5階病棟 副看護師長 益田 富貴子

清流ハートクラブ(心リハ患者会)

12月19日に第173回心臓リハビリテーション患者会を開催しました。

今年度最後の患者会は、毎年恒例となっている減塩弁当を出席者の皆さんと一緒にいただきながら座談会を行いました。

栄養管理室の菰田管理栄養士がメニューを作成し、内容はクリスマスイメージし、野菜も星の形に可愛くアレンジされているお弁当でした。

総塩分量は1.8gでしたが、スパイスやハーブをふんだんに使って料理されており、味気なさを感じることもなく、とてもおいしかったです!

今年も多くの方に患者会へ参加していただき、有意義な時間となりました。来年度も様々な情報を発信していけるよう心リハスタッフ一同頑張っていきたいと思っています。

【メニュー内容】

- ・タンドリーチキン
- ・鮭のマスタードパン粉焼き
- ・クリスマスサラダ
- ・もやしの辛子和え
- ・フルーツゼリー



医療福祉連携室 小田 薫子



当院の登録医であります松本歯科医院 松本晋一先生(熊本産業遺産研究会会員)が発刊されました「球磨川の駅 ものがたり(2019年3月9日初版)」をご紹介します。

今年開通110年を迎える肥薩線、95年を迎える湯前線を記念して、肥薩線川線16駅とくま川鉄道14駅、幻の日肥線の1駅を併せ計31駅の歴史と鉄道遺産、歴史遺産、産業遺産、自然遺産の球磨川をマッチングさせ、まとめられたものです。執筆にあたっては資料や書籍を参考にするだけでなく、実際に全駅を訪れ、駅や地区の様子、球磨川との関係などを住民の方々に聞かれ書かれています。

松本先生のコメント

「私の願いは球磨川、肥薩線、くま川鉄道など歴史あるこの地と由緒ある鉄道の存在を全国の皆様に知ってもらいたい。仕事や観光、旅の足となる鉄道の交通手段としての“存在の大切さ”はもちろんだが、そこに在る駅そのもの、それに寄り添う球磨川、人吉盆地の田園、九州脊梁の市房・白髪岳他の山並みの素晴らしさを車窓、そして駅頭、川べりから素敵な車窓と共にぜひ味わってほしい。

どうぞこの本を懐に特急そして各駅停車で夫々の駅の風情、人情とそここの“お人よし”たちと巡り逢う楽しみを味わっていただければ幸いです。どうぞ好きな駅に一人降りて味わってみてください。」



くまもとメディカルネットワーク追加登録も受け付けています

現在当院では、くまもとメディカルネットワーク(※)の参加登録を積極的に受付けています。これまで12月23日現在6106名の登録を頂いております。他の医療機関や当院の追加登録も受け付けておりますのでご希望の方はお申し出ください。

(※)病院・診療所・歯科診療所・調剤薬局・訪問看護ステーション・介護施設・地域包括センターなどをネットワークで結び、参加者(患者)の情報を共有し、医療・介護サービスに活用する取り組みです。

球磨地域利用施設(提供:34, 閲覧:39)

・病院(提供:8)

愛生記念病院、球磨郡公立多良木病院、球磨病院、外山胃腸病院、東病院、人吉医療センター、人吉リハビリテーション病院、万江病院

診療所(提供:17, 閲覧:15)

閲覧:伊津野医院、小児耳鼻咽喉科、小児内科胃腸科医院、こんどう整形外科医院、権頭医院、酒瀬川内科、高田内科医院、たかみや医院、平井整形外科リハビリテーションクリニック、ふかみ耳鼻咽喉科、ほづみ皮膚科医院、増田クリニック小児科、みのだ内科循環器科、宮原医院、やまむら医院

提供:岩井クリニック、緒方医院、掛井眼科、球磨村診療所、古城クリニック、小林脳神経外科、しらお内科クリニック、そのだ医院、田中医院、堤病院附属九日町診療所、とやまクリニック胃腸科肛門科、外山内科、豊永耳鼻咽喉科医院、仁田畑クリニック、ひとよし内科、光永医院、渡辺医院

歯科(閲覧:2)

今藤歯科医院、御手洗歯科医院

薬局(提供:9)

あけはの薬局、きりん薬局 岡原店、きりん薬局西間店、きりん薬局原田店、ざんなん薬局、さくら調剤薬局 医療センター前、さくら調剤薬局瓦屋店、清風薬局 多良木店、清風薬局 人吉店

介護・老人保健施設(閲覧:12)

介護計画センター すずらん、介護老人保健施設 サンライフみのり、介護老人保健施設 シルバーエイト、介護老人保健施設 リバーサイド御葉園、居宅介護支援事業所 メディケアサポート光永、居宅介護支援事業所 リバーサイド御葉園、球磨郡医師会居宅介護支援事業所やまびこ、グループホーム ふれあいの家御葉園、通所リハビリテーション メディケア光永、特別養護老人ホーム 鐘ヶ丘ホーム、とやまクリニック介護支援センター、ヘルパーステーション リバーサイド御葉園

訪問看護ステーション(閲覧:5)

球磨郡医師会訪問看護ステーション、人吉市医師会訪問看護ステーション、訪問看護ステーション いちよう並木、訪問看護ステーション すずらん、訪問看護ステーション リバーサイド御葉園

地域包括支援センター(閲覧:5)

あさざり町地域包括支援センター、上球磨地域包括支援センター、球磨村地域包括支援センター 錦町地域包括支援センター、山江村地域包括支援センター

登録に関する問い合わせ先:

人吉医療センター 医療福祉連携室 0966-22-2191(内240)

くまもとメディカルネットワークサポートセンター 0120-25-3735

救急救命士 就業前実習

この度は、救急救命士の就業前実習に際しまして、下川副院長をはじめ、ご指導していただきましたスタッフの皆様により感謝申し上げます。

今回の実習では静脈路確保、薬剤投与といった救急現場で行う特定行為をはじめとし、患者様への問診、観察、処置の技術向上を目標とし実習を行いました。

静脈路確保では多くの患者様に実施させていただき、指導者の下で経験を重ねて技術を磨くことができました。

1か月の実習のなかで、救急現場に必要な問診力、観察力を習得出来たことを日々の現場で実感しているところです。

また病院内の治療を知ることで現場での情報収集と病院連絡の内容が早期治療に繋がることを学び、消防と医療機関の連携の向上も大切だということが分かりました。今後は病院での治療がスムーズになるような現場対応を行っていききたいと思います。

対応した患者様の中で高齢者が多く、人吉球磨の現状を知ることができました。地域に見合った医療の知識を知っておくことは必要だと感じました。これを機にもっと医療の知識を深めていきたいと思っています。

最後に、就業前実習で学んだことを現場で活かして、地域住民の大切な命を守る為、常に向上心を持って精進していきます。

貴重な経験をさせていただきありがとうございました。

人吉下球磨消防組合 宮田 龍一郎

救急救命士の就業前実習に際し、下川副院長をはじめスタッフの皆様には、ご多忙の中大変お世話になりました。

本実習では、傷病者の初期評価、バイタル観察やその他処置の補助、静脈路確保、CPA 患者に対してのアドレナリン投与など様々な事を経験させていただきました。

実習を行う中で、救急隊からの情報を基に疑われる疾患を予測し、

受入れ準備を行い活動するという一連の流れがあることを知り、プレホスピタルにおいて情報収集がいかに大切か改めて実感することができました。また初期評価やバイタル観察において、なぜABCDEの順に評価していくのか理解することができたので、今後の救急活動で傷病者観察を行う中で活用していきたいと思っています。

特定行為についても、丁寧な指導を頂きながら、回数を重ねるごとに手技の向上を実感することができました。現場で実践する際は、ご指導して頂いたことを活かしさらなるレベルアップに向け、日々訓練に励みたいと思います。

今回の実習を通じ感じたことは、救急救命士としての知識・技術を学ぶことはもちろんですが、実習を通して人吉医療センターのスタッフの皆さんに自分のことを知ってもらい、これからより良い関係を築いていくことが一番大切だと感じました。今回学んだことを活かし、地域住民の命を救える立派な救急救命士になれるようこれからも精進していきます。

今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。1カ月間誠にありがとうございました。

人吉下球磨消防本部 救急室 岡田 和摩

この度の気管挿管に際しましては、木村院長をはじめ、ご指導いただきました麻酔科の先生方、スタッフの皆様により感謝申し上げます。

また、実習にご協力を頂きました患者様にも心からお礼申し上げます。

実習中は、気管挿管に必要な知識と技術を学び、救急救命士としての更なるスキルアップに努める事ができました。今後は習得した知識と技術を現場活動に活かし、地域住民の安心安全を守るため、消防・救急業務に努力精進していく所存です。

本当にありがとうございました。

人吉下球磨消防組合 東分署 救急救命士 中村 瑞樹

屋内消火栓操法大会参加

11月12日人吉下球磨消防署で開催された第30回屋内消火栓操法指導会に参加してきました。基本的な消火栓の取り扱いや一連の流れなど技術を身に付け、災害発生時に効果的に活用できるよう大会の約2週間前から3回の練習を重ねてきました。放水ホースの延長や実際に放水を行い、火元に見立てたものを倒すのですが、どれも初めて経験することばかりで初回の練習は特に大変でしたが、練習を重ねていくうちに操法を取得し、さらには迅速に行うための戦術まで考えるようになっていました。そして迎えた本番当日は晴天に恵まれ、多数の企業や病院などが参加していました。

いよいよ私たちのチームの出番がやってくると、会場の緊

張感からか2個のうち1個の的がなかなか落とせなかったり、手袋をはめ忘れて操法に臨んでしまう方がいたりするなど面白いハプニングがあったのは秘密ですが、これまでの練習の成果を精一杯発揮することができました。結果は27位中18位でしたが、他のチームと競い合うことによって習得した消火栓操法をいかに迅速に行うかという本質は、チーム全員が達成できたと思います。



臨床工学部 中岡 克聡

デイキャンプにおじゃましました

11月下旬、アウトドア同好会の活動があると聞いたので、勤務の前におじゃましてきました。翌日が雨予報ということで、デイキャンプになったそうです。今回は中川原公園での開催で、7組の参加がありました。熊本市内に異動された整形外科の林田先生も来られていました。各家庭から、おでん、豚汁、焼きそば、鮭のクリームソテー、やきとり、リングケーキ、キッシュとたくさんの料理を持ち寄り、焚火をしながらいただいたそうです。私は後ろ髪を引かれながら出勤となりましたが、次回はぜひ参加したいです。アウトドア同好会では年に数回キャンプ活動をされているので、皆さんもぜひ参加しませんか。



臨床検査技師 濱津 育宏

総親会忘年会

12月14日研究発表会後、総親会忘年会が開催されました。はじめに木村院長の挨拶があり、ご来賓の人吉市長 松岡隼人様の挨拶、地域協力会顧問 大瀬敏克様の乾杯のご発声のもと開宴しました。

今年は医療安全推進週間に伴い、転倒予防川柳募集を行い、57句と多数応募があり、医療安全管理委員会から選んだ優秀賞3句の表彰も行われました。(下欄紹介)

その後は毎年恒例の新入職員による出し物など行われ、盛会のうちに終了しました。

【転倒予防川柳】優秀賞受賞作品

- ・動くたび 増えてく柵で おりの中 (感 染子)
- ・転ばない そんな自信が ころぶもと (内田 桃香)
- ・栄養に 筋トレ添えて いざ予防 (筋肉の球磨川下り)

総親会 宮原 由佳

門松制作を行いました！

12月21日に当院のOBでもある中村末太郎さんの指導の下、門松作りが行われました。

中村さんの家に到着後、まずは赤飯と豚汁で腹ごしらえをし、作業へ取りかかりました。中村さんの熱のこもった指導を受けながら、今年はロープや番線で竹をくくる作業や、シノを使い番線を締め上げていく作業に挑戦しました。中村さんが独学で始められた門松作りも今年で14年目となり、今年もとても立派な門松ができあがりました。



途中雨が降り、寒い中での作業となりましたが、お腹も心も満たされる門松作りとなりました。

医療福祉連携室 小田 薫子

追悼

この度、当院登録医でもあられました瀬戸致行先生がご逝去されました。

永らく当地域で産婦人科医としてご活躍されたご功労に敬意を表しますとともに、心からご冥福をお祈りいたします。



新 任 紹 介



こじま きひろ 児嶋 千尋 (5階病棟・看護師)

最終卒業校：出水中央高等学校

趣味：ミニバレーボール

自分のコマース：笑顔を忘れず、一生懸命頑張ります。よろしくお祈りいたします。

12月の勉強会報告

12月6日 人吉球磨B型肝炎学術講演会

「長期予後考えたB型肝炎診療」

熊本大学大学院生命科学研究部 消化器内科学 准教授

田中 基彦先生

